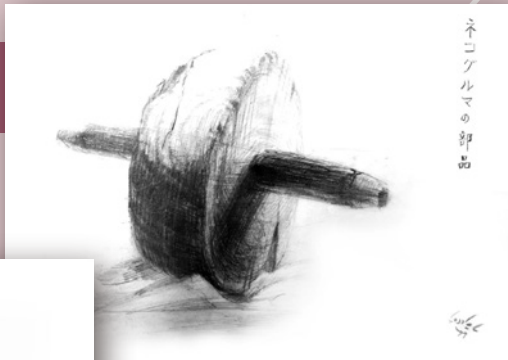
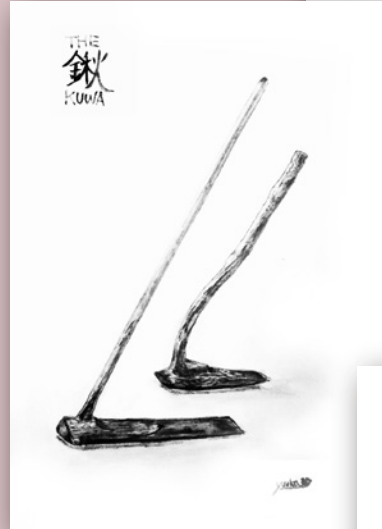


農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

# 学術情報課程通信



ネコグケルマの部品



鋤



2019.9.1  
原田一志

## 農具

本学「食と農」の博物館の収蔵資料には、かつて田畑を耕すのに使われた古農具類とともに、布素材の麻や木綿、絹を扱う機械や糸車などの道具類をはじめ、多くの農作業着も収蔵されています。農作業着は農家の女性たちが、主に冬の間に布を紡いで作られます。

尋ねてみると、青森の南部麦刺しとも異なり、独特な刺し子模様だと言います。雪国秋田に暮らす農村女性だけに、その「でたち前掛」に表現した布への思いが伝わってくるようです。(Y)

## 美術館の邂逅

東京農業大学「食と農」の博物館 館長 上原 万里子

博物館や美術館には、よく訪れた記憶があります。子供の頃は両親や祖母に連れられ、成人してからは友人と行くこともあれば、一人でも出掛けて行きました。海外出張の合間にも、その国の歴史に触れられる博物館や美術館に行くことが多かった気がします。

であるルソーとピカソが登場する美術史のような側面もある小説です。作家は原田マハさん。学芸員の資格を持っており、森美術館とMOMAの人的交流の一環でMOMAに派遣された経歴があるそうです。だからこそ書ける一冊なのですが、それでいてフィクションの部分にも感動するという大変印象深い本でした。

## 平成27年 学芸員・司書関連新規就職先一覧

平成27年12月現在

学 科	就職先
農学科大学院前期課程1年	埼玉県立自然の博物館
畜産学科	静岡市日本平動物園
畜産学科	株式会社どうぶつむら
バイオセラピー学科	沖縄マリナリサーチセンター
バイオサイエンス学科	松岡美術館
森林総合科学科	株式会社シーアイシー(博物館環境調査関係業務)
造園科学科	目黒区立中目黒公園花とみどりの学習館
造園科学科	明治神宮
アクアバイオ学科	恩賜上野動物園(臨時)
司書	栄養科学科
司書	蓮田市教育委員会(司書・学芸員)

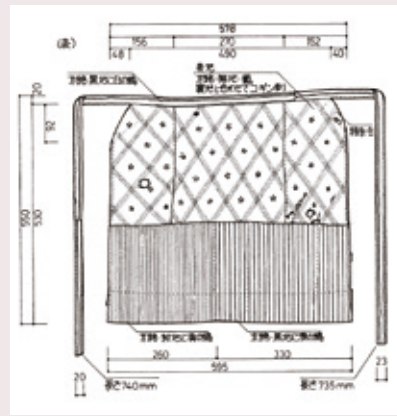
学 科	就職先
農学科大学院後期課程10年卒	静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム
農学科16年卒	千葉県立中央博物館生態園
醸造科学科26年卒	横浜ズーラシア(嘱託)
アクアバイオ学科25年卒	オホーツク流水館
アクアバイオ学科25年卒	えりも町郷土資料館
醸造科学科25年卒	栃木県佐野市立図書館
森林総合科学科23年卒	横浜市立大学附属図書館

## 農事遺産 ②

### 農大古農具コレクション



資料名: でたち前掛 No.1203  
寄贈者: 斉藤敬太郎氏 秋田県由利郡西目村  
収 集: 1971年7月28日



実測図作成 宮本八恵子

本学「食と農」の博物館の収蔵資料には、かつて田畑を耕すのに使われた古農具類とともに、布素材の麻や木綿、絹を扱う機械や糸車などの道具類をはじめ、多くの農作業着も収蔵されています。農作業着は農家の女性たちが、主に冬の間に布を紡いで作られます。

尋ねてみると、青森の南部麦刺しとも異なり、独特な刺し子模様だと言います。雪国秋田に暮らす農村女性だけに、その「でたち前掛」に表現した布への思いが伝わってくるようです。(Y)

## 学術情報課程通信 第4号 GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学  
学術情報課程 発行  
〒156-8502  
東京都世田谷区桜丘1-1-1  
電話 03-5477-2533  
レイアウト・印刷/共立印刷株式会社  
平成28年(2016)年2月28日 発行

www.nodai.ac.jp/info

## 編集後記

本課程における関係機関への就職者の多さが毎年注目を集めている。学芸員・司書資格を履修できる理系大学が少ないことも理由の一つである。この道に進む学生の強い動機と努力を維持する力は、標本室と図書室を併設した「博物館の父」田中芳男の理想を引継ぐ縁ゆえか。(R)

## 平成26年度 資格取得 状況

東京農業大学  
資格取得者数

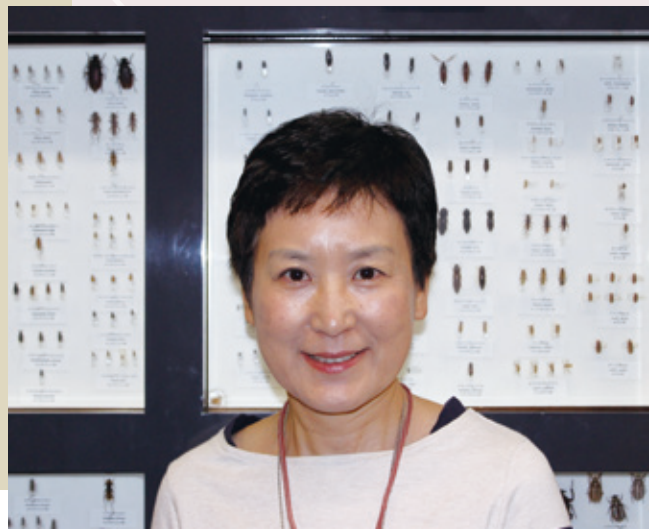
学 部	学芸員	司書
農 学 部	57	12
応用生物科学部	15	7
地域環境科学部	32	11
国際食料情報学部	10	12
生物産業学部	28	—
合 計	142	42

東京農業大学  
短期大学部  
資格取得者数

学 科	司書
生物生産技術学科	3
環境緑地学科	4
醸 造 学 科	2
栄 養 学 科	3
合 計	12



# 「収集した標本が、 どんどん博物館の 資料になっていく」



千葉県立中央博物館  
自然誌・歴史研究部  
主席研究員(兼)資料管理研究科長

斉藤 明子 Akiko SAITO

1959年東京都生まれ  
1981年東京農業大学農学部農学科(昆虫学研究室)卒業  
1990年より千葉県立中央博物館勤務、現在に至る

学芸員を目指した、もしくは千葉県立中央博物館(以下、中央博)で働き始めたきっかけは

私が学生の頃はまだ学芸員資格の課程は農大にありませんでした。昔から昆虫が好きで、昆虫学研究室があったため農大に入学しました。昆虫に関わる仕事をしたいと思っていて、その中の一つの選択肢として学芸員を選びました。ただ、中央博で働き始めたのは卒業してからだいぶ後で、三十歳頃からでした。卒業から中央博に来るまではいろいろな仕事をしていました。

どのような職業を経験されたのですか

学部を卒業後、大学院に進むという進路もあったのですが、卒業してすぐは昆虫関係の専門書を取り扱う小さな会社にお世話になりました。結婚を機に会社を辞め、森林総合研究所や農業関係技術研究所でアルバイトをしつつ、研究者との交友関係を広めていきました。その後、中央博に来る二年前には女子高の理科の実験助手をしていました。その間に中央博の募集があった、その時に学芸員になりました。学芸員になる前も研究は続けていて、国立科学博物館の先生にご指導いただいて、論文を書いたりしていました。

この仕事をしていてよかったと思うこと、やりがいは何ですか

私は標本をもとにした昆虫の分類について研究しているのですが、標本を集めて保存していくことが大好きです。博物館ではまさに資料を収集し、それについて研究して保存していくことが仕事ですから、自分が蓄積していくものがどんどん博物館の資料になっていくということはとてもやりがいがあります。また、展示を見て喜んでもらえる嬉しいうし、展示が昆虫に興味を持っていただけるきっかけになることもやりがいの一つです。

一番記憶に残っている仕事やエピソードはありますか

大きな昆虫関係の展示を行なったときには、何年前から準備が必要でした。構想は四年前から、どのような展示にするのかは、二年前くらいから具体的に考え始めました。また、物を展示するだけでなく、昆虫に関するイベントを数多く行いました。もちろん私一人ではできないので、数多くのボランティアの方に手伝っていただきました。その時に培った人との関係は今もつながっています。大きなイベントをやるとすごく苦労はしますが、今はいい思い出です。標本箱内の標本の並び替えなど、毎日飽きるほど昆虫を並べていました。でも、好きなことを飽きるほどできるのは、すごく幸せなことなのでしょうね。

大学の間に身に付けてよかったと思う技術や考え方はありますか

研究室に入り浸ることで、直接授業で習わないようなものを見たり聞いたりして覚える、ということが大切だと思います。例えば標本作りにしても見てやり方を覚える。種の同定についても自分で図鑑を

見て調べるだけでなく、「ここが違う」というのを教えてもらうと全然違います。その時は分からなくても、ある時分かるようになります。分かるようになるのは自分の蓄積もあると思いますが、周りからの影響というのも大きいと思います。

学生時代に打ち込んだことは

虫ですね。昆虫学研究室に入りましたが、周りは虫が好きな人ばかりで、虫に浸っていました。一年生のときには、何を思ったのか応援団付の吹奏楽部に入りました。毎日二十時まで練習して、とても厳しかったのですが、その時の友達との交流は今も続いています。

博物館業務で気を付けていることはありますか

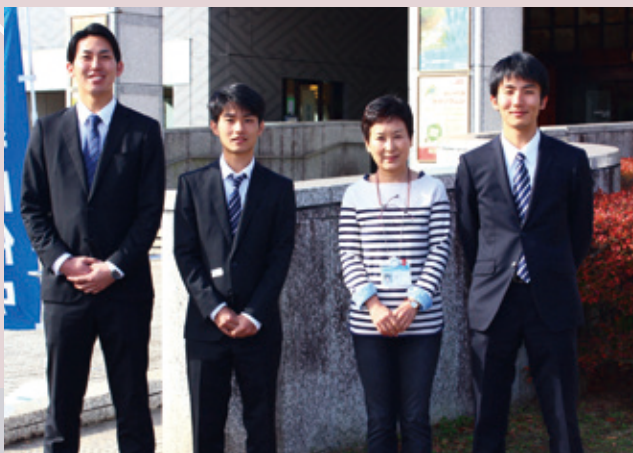
お客様を不愉快にさせないことでしょうか。質問されても分からないことはあります。単に分らない場合でも、言い方とか話の持って行き方で印象は変わるので、そこは気を付けています。

最近の仕事内容を教えてください

今は資料管理研究科という部署で働いているので、虫の研究だけではなく、博物館の資料全般のことをやっています。具体的には収蔵庫の保存環境の維持や、資料の貸し借りの手続きの処理、マニュアル化などです。

最後にメッセージなどお願いします

学生時代の時間の余裕は大学卒業後には得がたいので、この時間を大事にすることですね。自分のやりたいことがあれば、とにかくやってみる。ないなら、一生懸命見つけることです。直接仕事につながることも少ないでしょうが、絶対無駄にはなりません。学芸員だと募集の有無などの運もあります。が、それに向けて努力することが大事だと思います。



取材 小出玄也(バイオセラピー学科四年)  
駒形 森(農学科四年)  
池田太一(国際農業開発学学科四年)

私が本学を卒業したのは昭和六十二年で、在籍当時、農学部・農学科はまだ世田谷キャンパスにありました。現在は、山梨県職員として県総合農業技術センターで、野菜の栽培開発や改良など試験研究業務に携わっています。学生時代は農学科の研究室に所属していましたが、学芸員資格取得のため学術情報課程を履修していた縁から、卒論作成は「図書館・博物館情報学研究科(当時)」でお世話になりました。当時は、まだインターネットが普及する以前の時代でしたが、研究室には先端をいく文献情報検索システムがあり、世界中の膨大な学術情報の中からデータベースを介し、最新の研究情報や専門分野の情報を得ることができました。

現在、私が所属する職場では、研究課題の抽出や立案、設計や試験の遂行、結果の取りまとめや公表、という流れで業務を進めています。問題解決や新たな技

## 「農学」という視野

術開発のために個人でできることは限定されます。そんな中で、事前に必要な情報を収集・解析しておくことは、効率的かつ集中的に仕事を進める上で重要です。学術情報課程では、これら学術情報の検索や文献利用状況の分析などの他、博物館・科学館等の視察や実習など現場に関わることも体験しました。専門知識や経験を持った人たちと直接ふれあうことはとても大切です。コンピュータを介した情報からは得られない貴重な生の情報や、思いがけないアイデアを得られることもあります。また、専門分野を超えた幅広い人たちとの交流にもつながります。「農学」は、自然科学、社会学など多くの分野を包括してはじめて成り立つものです。本学の学生さん達が、充実した学生生活を送り、将来社会の一員として活躍されることを期待します。



赤池 一彦 Kazuhiko AKAIKE

1963年山梨県生まれ  
東京農業大学農学部農学科卒業  
山梨県総合農業技術センター栽培部長・主幹研究員



山口 翼 Tsubasa YAMAGUCHI

1992年長崎県生まれ  
東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒業  
松岡美術館 学芸員

## 美術館に勤めて

お客様に見て頂けるようにどのよう工夫するかは、まさに学芸員の腕の見せ所です。

そもそも、展示という行為は作品を保存することと相反するように思えますが、作品を展示し、一般の人々にその価値に気づいてもらうことで、保存につながります。保存と並行し、展示によって文化財の価値を一般の方々に伝え、文化財を後世に残していくことが学芸員の使命ではないでしょうか。他の先進国に比べ、学芸員という職業が社会的に曖昧である日本だからこそ、学芸員一人ひとりが社会にどう寄与していくかを考えていくべきだと思います。

美術館学芸員といっても世には色々な種類の美術館があり、収蔵品や館の運営形態によってその職務の方向性は大きく変わってきます。私が勤めている松岡美術館は、実業家松岡清次郎が蒐集した古今東西の美術品約1800点を所蔵、公開しています。所蔵品の内容は、古代エジプトの木棺や石像、ガンダーラの仏教彫刻などの古代東洋彫刻、中国陶磁を中心とした陶磁器、西洋画、日本画、現代彫刻など幅広いことが特徴です。農大出身の私は美術について専門的な教育を受ける機会が少なかったため、毎日が勉強と発見の日々です。

松岡美術館の特殊な部分は、企画展の際に他館から作品を借り入れず、収蔵品のみで展覧会を作り上げる点です。これは、「私立美術館とは、創立者個人の美に対する審美眼や鑑識眼を訴えるべき場所である」という当館の創立者の松岡清次郎のポリシーによるものです。学芸員にとって、展示の企画は大きな仕事の一つであり、企画の際に利用できる作品が限られていることは、一見デメリットのように思えますが、その分作品を様々な視点から見つめることができます。同じ作品を様々な面か